

船舶事故調査報告書

平成23年7月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成22年8月19日 06時45分ごろ
発生場所	北海道根室市納沙布岬灯台から真方位129° 27.7海里（M）付近 （概位 北緯43° 05.6′ 東経146° 18.4′）
事故調査の経過	平成22年8月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第二成漁丸、119トン 132227、有限会社岩井商店 31.60m（Lr）×6.40m×2.80m、鋼 ディーゼル機関、592kW、平成3年10月 B 漁船 第十六誠照丸、9.7トン HK2-20303（漁船登録番号）、個人所有 14.06m（Lr）×3.64m×1.46m、FRP ディーゼル機関、504kW、平成4年7月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 53歳 三級海技士（航海） 免許年月日 平成2年6月29日 免状交付年月日 平成21年3月24日 免状有効期間満了日 平成26年6月2日 甲板員A 男性 58歳 免許なし B 船長B 男性 39歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年3月6日 免許証交付日 平成19年4月27日 （平成24年4月29日まで有効）
死傷者等	A なし B 負傷 1人（船長B）
損傷	A 右舷中央部外板に凹損等 B 船首部及び球状船首に凹損及び亀裂等
事故の経過	A船は、船長A及び甲板員Aほか5人が乗り組み、ロシア連邦のオブザーバー3人を同乗させ、さんま棒受網漁の指揮船業務のため、納沙布岬南東方沖のロシア連邦主張の排他的経済水域の入出域チェックポイント

	<p>(以下「CP」という。)において漂泊した。</p> <p>甲板員Aは、レーダーレンジを6Mとして単独で船橋当直に当たり、前方を航行している数隻の漁船を監視していたところ、右舷方からA船に向けて接近するB船を視認し、B船に向かって窓から大声で叫んだ。</p> <p>B船は、船長Bほか4人が乗り組み、さんま棒受網漁を終えてCP経由で根室市花咲港へ向け、自動操舵により、針路約262°(真方位、以下同じ。)及び対地速力約10ノットで航行していた。</p> <p>船長Bは、操舵室左舷側の椅子に腰掛けてレーダーレンジを8Mとし、単独で操船していたところ、船首方のCP付近に漂泊中のA船のレーダー映像を確認したが、CPまでの距離がもう少しであったこと、また、帳簿類の整理及び無線局等への通報業務を終えたばかりであったことから、気が緩み、居眠りに陥った。</p> <p>両船は、平成22年8月19日06時45分ごろ、納沙布岬灯台から129°27.7M付近において、A船右舷中央部とB船船首部とが衝突した。</p> <p>両船は、自力で花咲港に入航したが、船長Bが、前額部挫創を負った。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>	
その他の事項	<p>船長Aは、漂泊中、天候等が急変したときには報告するよう指示していた。</p> <p>甲板員Aは、平成19年8月ごろからA船に乗り組んでいた。</p> <p>船長Bは、連日の操業及び不漁による睡眠不足から疲れを感じていた。</p> <p>船長Bは、眠気を感じていたため、CP通過後、甲板員と船橋当直を交代するつもりであった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は漂泊中、B船は西進中、納沙布岬南東方沖において、両船が衝突したものと考えられる。</p> <p>甲板員Aは、単独で船橋当直中に適切な見張りを行っていなかったことから、B船がA船に接近するまで気付かなかったものと考えられるが、甲板員Aから十分な情報が得られなかったため、衝突に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>B船は、単独で操船中の船長Bが、船首方に漂泊しているA船のレーダー映像を認めていたが、その後、居眠りに陥ったことから、A船に向けて航行したものと考えられる。</p> <p>船長Bは、連日の操業等により疲れが溜まっていたこと、及び操舵室内の椅子に腰掛けた状態で操船したことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、納沙布岬南東方沖において、A船が漂泊中、B船が西進中、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	